

吉備温故

四十三
共二百一
四十三
冊

和書門類	二九二七二	函	二	架	六九	冊
------	-------	---	---	---	----	---

和書類	二九二七二	冊	二	函	五	架
-----	-------	---	---	---	---	---

內閣文庫	
番號	和 29272
冊數	64 (25)
函號	175 182

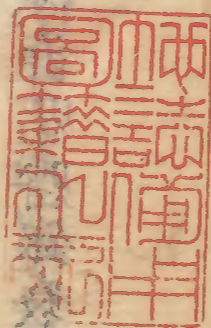
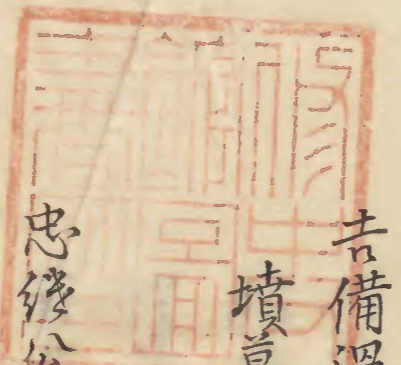
内二〇七七三號



吉備温故卷之四十一

墳墓

忠继公龍峯寺影石景堂



清泰院寺内、在り元和元年十一月廿二日岡山藩より傳遊云

淨法号 龍峯寺殿雲甚元祥大居士

御家譜略曰忠继 播广宰相輝政之次子也母者征夷大將軍大相國源家康公

御幼名藤松後号左衛門督生于城州伏見慶長

八年正月賜備前國于時五歳於伏見城有拜禮

家康公賜吉光脇指仰曰可准我子秀忠公又賜

照指同十三年於秀忠公御前元服 十歳賜松平氏



名三郎叙從四位下任侍從賜忠一字又拜領正
宗御腰物同十八年以播州宗粟佐用赤穂三郡
加賜于備前國同八月往江戸駿府有拜禮秀忠
公賜御腰物馬鷹同十九年築江戸城石壁此冬
大坂作乱十月廿日出張于時十六歲十一月七
日陣于摂州大和田川渡川追撃敵注進二條城
家康公御感不斜不日進發陣于住吉忠繼進攻
今橋城中鉄炮如雨秀忠公聞之賜鉄楯立塞橋
上頻射城中不堪拒而自燒橋兩御所感其忠功
元和元年二月歸備前國俄受病廿三日卒^{十七}
号龍峯寺自江戸駿府遣使節賜賻銀數百枚

左衛門督忠繼公之東照宮御娘也奈氏直の後室不況公再
嫁阿子て生服也生誕之 不況公逝去の後良正院殿
也中より大坂冬陣忠繼公十六歳より出陣之歸陣の後
家中の士宴合て物置き席に坐人云此殿日比の御行
儀遠山出陣より初多万事の指引下知の次第兎角云手槍勢
感入たる事甚く夫日有る今有る言を奴仕宴の場より
寒氣の時より一入骨折たりと有り手持酒を入る
る時入の肌着を脱ぎ此事他言を有たり作らしたる
伊志厚キ身不解りく覚ゆる末頼母女大将たりと云けれ
一府十人斗の士甚く打つ我は生母人まおも如く之扱ハ
我一人より會釋よめあまして今と以外きううう時め新

乃伊桑配十六歳の少齡を例あき可之聖朝の名將たりとせ
のふへしとわんたりす陳屋あり具口之を掃る事なれば必
凌て有れ近習の者共怪しく思ひて後より慥に心算を以て
たのへるに翌朝必違て有ぬおれく人々を驚かして
おろすまじきと云へり河波の手に夜討有し時安養寺
内苑と云者忠徳公の本陣へ走り行れ早具足をとるや
し居らるゝあまても早きは具足を召けり夜討は是へあま
まきと云たり是も膏より直に志すあを居らるゝおれんまに
良將の器量小粒にたりしに翌元和元年乙卯二月廿三日伊
去へ惜むべき人也此の卒去りし子細を此沙汰を以て
良正院殿継子の興國公を憎まなき物として國清公の遣

路を悉く忠徳公并侍者忠雄公へ進らせんと企阿る備前
岡山城中より興國公忠徳公列座より良正院殿侍對面の時
饅頭小毒を入り興國公へ進らせり其時仕お出たる女房痛
妻事と思ひ手の内小毒とふおを出さく之をやら興國公
心得むいそ食し強ん忠徳公此企を悟り興國公のお饅
頭を奪えて食さくはれ良正院殿の法顔をえり内赤
なりまきありをくはるに變りたりとふ是二月五日乙未良正
院殿の憤りの餅り毒の入る饅頭を多く食し其日卒去
たりしそふあ忠徳公も病氣發し其月廿三日逝し其おの
ゆまいも尋常の人の及ぬや其大坂陣より前迄の行路阿
しく中々大将の器量なりしと沙汰を以て興國公の

惛りて徳なきに思ふも其はまては戦ふ乃凡
俗押移る人之心虎狼に似たり多かりに兄への礼義が
乃めく深かりに感なき不飾り事之十七歳を背五尺九寸
美男少くおしゆたりと我官餘福不見えり

當寺中の國清寺に授以貝柳庵伴松庵の二庵を一所りて
法源院といひしの方治元年戊戌因茲侯君仲乃命に依り
清泰院と改め今亦多すて因州の法善提ちとありは知行は跡
米亦毎歳賜り又は年忌おき昔は因州より伊代系米を
此時は藩臣野口弥平兵衛立合といふ
野口は先祖は北條氏直の舍弟十郎に仕て八秩重右衛門と
いひて子幼少して伯父野口守左衛門に養ひ長となじ

ゆへ野口宗把といひし此宗把は忠継公に仕へ九十俵十二人上
扶持を賜り近習の法師武者と召れ納戸奉行初を慕ひ
召仕られし忠継公没去の後伊墓所へ引込遁世し臨終
嫡子に命をうれしといふあるありや退去するに後次男次子
召出され百五拾石賜ひ又五十石加増ありて今に因州の子孫
残りりて宗把は長生して慶安四年辛卯三月十三日當所
にて病死し宗把の三男野口弥平と傳ふは者西保四年三月九日
烈公に召出され俸米を賜りし今亦多し此家世に宗把の
子孫ある不圖かく因州に使にお會ふ

同寺の... 法善提ちとありは知行は跡

宮内少輔

清泰院殿忠雄公御墓

同寺内不在 寛永九年四月三日於武江其御逝去同廿日

岡山江戶歸葬

清法名清泰院殿仁秀
良勇大居士トシ

御家譜畧曰忠雄

池田三左衛門輝政之三子也
母者將軍漁家康公之御女

幼名勝五郎生于播州姫路城慶長十三年於秀

忠公御前元服^七賜松平氏名新次郎任宮内少

輔賜御腰物御馬同十五年賜淡路國^八四月為

拜禮往江戶駿府家康公賜御服指秀忠公賜御

腰物御馬同十九年大坂作亂陣于今宮圍之遣

兵船于葦島侵博浪浦守將平子主膳出戰横川

次太輔擊手捕平子箕浦玄蕃取番船入博浪浦三

人賜御感状元和元年大坂又起忠雄出陣同七月

依忠繼無嗣拜領備前此冬往駿府江戶為拜禮

獻進物同二年正月任侍從及暇賜御腰物馬鷹同

三年二月往江戶七月秀忠公上洛忠雄候于山崎

同五年四月秀忠公上洛于時福嶋正則背制法除

國疑作乱西園諸將與忠雄共受命押寄于廣嶋福

嶋家臣畱守不及防戰退散忠雄又上洛候于山崎

同六年築大坂石壁自備前挽上大石同七年三月

賜江戶福島屋敷并銀千枚吳服及暇賜繩目守家

刀馬鷹同九年家光公上洛任征夷大將軍叅内忠

雄乘輿扈從寛永元年又築大坂城櫻門石垣一大

石豎四間横八間同三年吉河所上洛九月行幸家
光公二條亭于時忠雄任参議為騎馬扈從同五年
又築大坂天王寺口石壁同八年七月弟政綱卒無
嗣以領地赤穂郡被下忠雄于時輝澄輝與領地少
忠雄請願與二弟秀忠公感其孝友任忠雄旨同九
年正月秀忠公薨為遺物賜當麻服指銀子五千枚
同年四月三日忠雄卒三十一歲号清泰院翌四日
以酒井讚岐守為上使賜賻銀五百枚

殉死加藤主膳墓

清泰院殿は墓り側小立り主膳清泰公の寢所あり
殉死しられたる墓の側小葬りしありし

兒小性加藤主膳の寵お他小異あり者あり一日清泰公
振舞よりゆむし園中より物語ふ今日ある馳走あり
し不破万作の衣袋を床にかけしとたりと室ふや
厠へ行強ひゆり戸を叩んき人ハ内より戸志あり
明は愛のやあれは不破万作ありと明しへしや
清泰公をふ室ひと後たり此より一世不忘は
面白ありしと後と室ひし忠雄公卒去り時
主膳も殉死ありと採納官録ありし

忠雄公の夫人の法墓

同寺内小在り峰須賀阿波守至鎮の息女なり寛永九年
壬申正月廿九日岡山より逝去あり法法早芳春院殿

妙圃日光大禅尼トハ蓮昌寺の境内ニ葬リテ墓
所一ノ寛文中不受不施宗門改の時蓮昌寺住僧
日宗伊國追放されヨリテ當寺ニ改葬アリト
云

一説ハ三番町瑞雲寺ニ在リトハ是説誤トシテ改
葬ハ寛文八年八月の事ト奉行ハ寺内本堂焼つ初也
本堂焼つ初候ヨリ白銀三枚本堂焼つハ賜ヒ貞享三年
本堂焼つ初書上の内ホクニテ
宮内少輔忠雄君ニテ
烈公大ニ愁傷
多ハ悼リ伊國を法恭院ニ納メテ今ハ所葬也
前年議者雄三月末迄ヨリテ不何ヨリト云知月

本堂焼つ初候ヨリ白銀三枚本堂焼つハ賜ヒ貞享三年
本堂焼つ初書上の内ホクニテ
宮内少輔忠雄君ニテ
烈公大ニ愁傷
多ハ悼リ伊國を法恭院ニ納メテ今ハ所葬也
前年議者雄三月末迄ヨリテ不何ヨリト云知月

從四位下源光政於長
...

...

黒田素軒之墓

國清寺に在り

京極丹後守高廣

烈公の伯母聲

其子丹後守

烈公の弟 小家を譲り

隠居して安智といふ寛文六年父子不和丹後守を不孝と申

公聴せ違ひ五月三日評定所より作を渡さるるに京極

丹後守同近江守父子は改易丹後守を南郡大膳守更近江守

二藤堂大學頭少将とて父の入道安智并丹後守より申信

濃守あり何の作あり同旨丹後守の次男茶吉令と

四歳ありと烈公少将なり烈公は道平掃部右衛門守

より不執政酒井雅樂頭より右あり越され申せし同

駢より湯浅源吉とては使より上意の秘恐入るるに

執政よりしきり同日廿日京極茶吉迎へて備前守

山下文左衛門野村惣左衛門田中三甫徒者七人足輕小笠原人

小人七拾人丹後宮津より赴た茶吉を移す同六月十番若山

に陣着き内山下今土舎の裏門前あり 小屋敷を搦へ住居あり

後赤坂新牟依村の大唐谷小御所にて住居あり延宝八年八月

十七日曹漁公より関東小書出より京極丹後守の堂文

六年五月領知より召上南郡大膳大夫へ江前より付丹後守子

三人より黒田茶吉一人を新太郎と改めしなり同日七日は

作渡同六月備前守引取より茶吉茶吉茶吉茶吉茶吉茶吉

成しし当神女何格に仕着せしなり或る向を奉り右江戶

より作せしなり森本と惣兵衛右と書し九月朔執政堀内

備中守殿より差出長日二日堀田留守に後をゆき物事未
行りれり今度 嚴直院殿の通福より依り東叡山より
新より京極道に寄る今日申赦免ありされを奉告すも心
以事たすへしと昨日の伺書に云ふ事出さるに及てはと
申されしに後入道し素軒よりあらぬ女冠福十も七月
病て死去時年歳之同十日國法寺俊鶴年終ありき
申候し同十二年佐々松より柩を森下口國清寺に
列る途中に不潔者弟子或人付法寺の門を過堅足粒に
日置格古場より出り門内徒目付あり足種申し小路より
修何後日置格古場池田三郎吉衛上坂為人池田
羽村有李門田市兵衛田中安吉為今森檀吾情お詰事を司る

俊鶴引導汲僧二十五人法名隣溪院殿松陰素軒居士
其墓回前敷の内訃間四方に築起西向あり同十六日一七日
法事井上庄兵衛素極の家来より執りて公より施物ありて懺
法施餓鬼垂示也此日七日並格古場池田三郎吉衛池田七郎吉衛
上坂為人池田李門田市兵衛田中安吉格古場今森檀吾情并
素軒家来士より焼香を同八月廿九日十七日不常り又法
事あり此後石黒後孫吾情一人詰む同十月朔日祠事金五十両
を附り同十二月十二日井上庄兵衛大妻子あり木村庄古場素極の家来
小性強小あり是京極對馬屋の形より人素極の家来
あり一者男五人士あり井上庄兵衛古村中史と人
小者女六人内二人乳残り五人あり

良正院殿伊墓

正覺寺に在り

征夷大將軍大相國源家康公の伊女なり忠徳公忠雄公
の伊母堂之元和元乙卯年二月五日於京都伊逝去京師
知恩院に伊送葬を馬河督板分於當地正覺寺に伊
祭具に伊送葬有之伊墓にあり伊當古に良正院殿
伊衣服伊與伊履風尔什物も有之処亦伊後當寺
燒失の首亦残り鳥有之今一物も無之

天球院殿伊墓

蔭涼寺に在り

繁窓壽栄大姉

護國公の伊女山崎左衛門右衛門盛室之、後辭別あり
伊家より伊あり、寛永十三年丙子十二月廿七日伊逝去
當寺内にて火葬して伊骨を京於妙心寺の天球院
に當古に納むと云

池田瓢庵公伊墓

孝福寺に在り

輝政公の伊九男之伊病身なり伊子世に

委り伊の伊を伊法号清徳院殿慧山宗智大居士
寛永十七庚辰年七月廿二日伊卒去

能勢修理大夫頼吉墓 五輪之

内田町之町家の裡不在元来妙勝寺之境内之依之
今小妙勝寺屋敷より小見島郡塩生村布衣之
能勢修理之子より此頼吉を岡山へ来り住し中知の松田
方の麾下ありし子修理家を継ぐ宇佐直家
臣より信不明禪寺合戦の時庄式部少輔と追討せし
其外所々武切あり次男の岡山城を金光信前の子
とあり金光より命宗高と云

金吾中納言秀秋卿墓

瑞雲寺不在俗稻系塚より慶長八癸卯年十月十八日
於岳山城内病死之望修子家傳不法名を瑞雲院殿
秀巖日詮より此墓に諸人希詣し齒乃痛くを次
より人より立形し瘡中より此禮より楊枝を墓前より傳
せし

宇佐直家墓

酒折宮社坊平福院に在り天正九年二月十四日行年五十三
岡山城内病死之法名涼雲星屋大居士より病死し首
戦國之事をれが卒去り深く隠し其病中より稱し
城内へ移り埋めし其後當寺に改葬し
堂を其よりへり建木像を安置し像を直垂

烏帽子子... 官乃祿なり... 以て
かんがふ... 太閤秀吉公乃執養... 後五位
下小叙... 予... 語ありん。

水石塔

蔭涼寺に在り寛文十二年、水野定進少将者男色を
安宅権五と云ふ者を切殺し一面の皮を剥きて立退長崎に
行りて其父を茂左衛門と云ふ父方知らぬ事ありし時
禁乃男色を犯し殊におかしを殺し一面の皮を剥きたる事
罪かりしを尋ねしに父茂左衛門と土倉家の親に連
たり此事長崎に翌年申され父を罪おかしに入志しぬ

婦... 此題言上... 早... 名... 一... 夫... 石塔... 曹源公... 山廻り

石碑

報恩寺小立り逆修の墓之定る他乃交小阿しを母世
此寺に納したるありし石面小左のまゝあり

六逆修 者為往生成等正覺所脩如件

兆南無阿弥陀佛

貞和四年戊子八月廿六日時正中日比丘尼淨西敬白

淨野郡

神宮寺陵

按日本記天武天皇八年三月吉備大伴大宰石川王病薨於吉備天皇
哭之太哀則贈大恩贈諸王二位上り大伴石川王乃陵之

小方村にあり諸臣乃塚あり天子の后妃の皇子等乃
陵と云ふ處に方料あり是を今按多に吉備津彦命の塚に

一の宮の上の山にあり塚ありと云ふ外考に景行天皇
の皇子七十余子皆國郡に封し各に其の國に今時諸國の
別と云ふ者則に別王の苗裔あり日本記に云く其の中妃
八坂入媛の生む所七男六女あり第十一子を吉備兄彦皇
子と云ふは同書に云く此皇子吉備國に封され
りあはれ名を吉備兄彦と云ふは小行と阿れは此國に
傳すけしむるは皇子燕死しあはれ一推し是を其の國に

此吉備足彦皇子の陵能く外にあり乃陵所多きあり大なり
いたるにきんんは神宮寺といふ則此北方村に式内あり
天鉾神社あり此神社は神宮寺にて是後白河あり陵あり
故に神宮山といふ之今も稱して是神社則此陵よりあり
て之を北方向村の中あり今も是社のありと記しあり
あり此天鉾神社の祭神は何とありわあは稱しあり
此吉備足彦皇子を祭りまゝに神あり也

古墳

笠井山の絶頂あり方北間あり石を積り塚あり一碑石
あり里民これを笠井村の墓といふ笠井村といふ人詳しん古墳の
説も笠井村の墓といふ笠井の始祀を吉備國より

出づるより日本記姓氏録おほくあり妻の人物の記あり又
経塚といふ志れといふ何きと是をまゝに記しあり

妹尾太郎兼康墓

津島村の内西坂の山あり塚あり並ひてあり北より二ツ目
の塚あり寛文のは或人あきとありに其中あり妹尾
兼康と名をかり付し後ありにすて兼康の塚ありあり
此に記しあり其外ありの塚あり記しありと記しあり
皆瀬尾等々墓ありあり下小考を記しあり

多田入道頼定墓

濱野村に壽古院あり寺僧の説に建武の乱に天白皇朝
は味方小倉より帝吉野に移りし後と記しあり

後小赤松則祐當國之守護職とありて將軍家より降るんを以て其字をよむに中より一は是を志して其を以て康永二年八月十二日終る此の所より服切て死す法名道諱とありて之を委ぬる人物之部より書す

近藤因幡墓



言五尺五寸五分
長八寸五分



西河原村小阿の當村三代居住宅地あり此を今も在り委ぬる人物之部より記す

繪師雷津墓

金山寺村小在り

古墳

福井村の野中小立り里民是を山伏塚とす

鼠塚

内田村小在り今も侍屋敷と成西川庭瀬口より

僧行教墓

河本村枝宮布八幡宮社地小在り當社を行教勅請す依り死すに當國小阿の所より其墓を建てし人なり

元亨釋書曰釋行教武内大臣之裔也居和州大

安寺貞觀元年詣豊之宇佐八幡神祠一夏九旬

晝讀諸大乘經夜誦密咒法歲已滿夢大神曰又

受法施不欲離師師迴王城我又隨行居王城側

當護皇祚耳教漸著山崎其夜又夢又神曰師見

我所居俄覺便起見東南男山鳩峯上現火光凌

晨至光处实灵区也教便録二事表奏帝詔稿二
部准宇佐祠規建新宮世言教祈見大神本身於
是弥陀觀音勢至三像現袈裟上因是殿内安三
像

松田権頭元隆墓

津島村の阿

文昭五年富山乃城小病死き津島村の福隆寺に葬る
松田代々日蓮宗を崇信し其に此寺を日蓮宗に改め
元隆の法名妙善とす故小寺を寺号とす妙善寺と改む
とす又一説す妙善は元隆の母の法名也

土肥經平の考小律則祐の道号を妙善とす然るに

元隆并小母の法名を称せしは若きより以前に
則祐の為小寺号を妙善寺と改りてや以て覺末等
也

古墳六ツ上小記姉尾の墓

津島村の内西坂とす所小阿天和二年四月廿日此乃
か同所の民漁兵衛とす其の家化のたぬ壁土を掘ん
中々古墳乃布くやうありて凡三四十荷小及(り
塚の下小長五尺横一尺深サ二三寸の石阿蓋を覆ふれ
此地を掘やぬ又同月廿日此乃同村庄屋平以命市
場村庄屋七を掘やぬ以件乃墓を開き是は管乃

根多きものおくけり推し廻す須加七郎左衛門足さされ方七中ちろ
しと田村 他乃塚をもうのちるへ一と同日五月十八日七郎左衛門
せすの平次郎七郎協契坂乃庄屋理左衛門お同道一塚お
より奴僕お令一堀りより長間横四尺をり深四尺の石を
掘出ー蓋をむられたる破鏡三面くらう子の長さ足印三寸
まのうの物をさつありくらう子のさしより赤き土乃こき物
少ー残まらうされとも何やいあのを弁せられためつーきり
やー同日十九日しとの塚をりーに諸石棺と覚しきものハ
たうーとせ

按もた管とあるは日本記おいしもの手纏みく往
古の手の飾ありー世にわのわお金せ入る是あはを

付く手纏と不足り飾を同根して是を脚アユ帯ヒ
いふ故事記お宮人の何ゆいの小鏡をみ茶室お茶室に
着り足紐をぬりて霞がしよあははけとあり女と又
玉をさく手足や飾る是を六手玉足玉といふ日本記お
所々足さう句カガおも唱へり水晶瑠璃琥珀り
類をもく似る物をて形瘻り此備りまくや
本おさき穴あり又ああるも何れはをわはり玉といふへ
る手といつて手足のかきうたをほおるも何れを
後古くの中一等級も器あると人死し棺中に
おきむらうし世のたうりやな句く古墳多しを
しゆらる古鏡何れ備中し生村まかりお世和銅

年中の葬一吉備公の母乃推中も古鏡行り
又ちう此は邑久那櫃村をり出ん石推中も古鏡
二面行り其後背を魚文行りといふ魚文乃鏡を
古きもの成り

津高郡

新大納言成親墓

一宮村多岐の南なる神宮寺といふ寺に前少将

源平盛衰記に備前備中の境なる有木り別所といふ所を送
柱形のめく掘石を墨くま納と行り又成親の子丹波少将
成経鬼界峠を陣取の時配下を墓を尋り此の時
の詞に曰く墓を何處やんと問うへそ有木別所といふ山中
是やよの備前備中の境なる吉備の中山打さる細谷川を分
たすへんかの別所を何處の地を尋れとあはれをいふ一村
松の根とすれを少将を崩る善草を分入る又すへん松
もふりれを卒郎波一木もいふにけふたすへん立ふあれた

一村の松の赤木に重藤引塞苔深く土の少言うり多言を
とて強も思われり畧浮く旧苔を打拂り墓を築打
費志過り乃ちさうく造りまたり各卒都海墓の中不立るに
ぬ又多うん子と誰もとく墓前不遂草乃道場志つらひて
僧を誂く少將と判官唐軒入道とねもん七日七夜のみ改念
佛中卒於世の經一部おき過去聖灵成等正覚を祈りふ
中判官入及哀小思ひ入る成親を有木の別前不送りしに
おえく釘貫り柱小

行きてぬ中名さうりい有木とて成親のつ
かくさるるい皆有木の別前不送りし墓そのとん

吉部秘訓曰文治六年三月十日故成親のの子息不備前



國小下向中骨をさく改葬しりといへり此時改葬有
墓あり一此成親の墓より仰り再任ありて此言ふ
議も任りしにこれあり下向改葬して法のため墓も
築ありといへり流人なるの墓もたへり大細言たり
人の墓あり又異本平家物語に配所の跡より東に十余町
計り行り墓ありといへり配所を有木別前より東に十余町あり
此成親の配所なり

此成親の配所なり
治承元年六月言付前不立配所跡七月十日難波より
補任小へ平家物語に八月十九日失いしをいへり

猪股小平六則信墓

下牧村西大川小橋全の瀬也、所存河川岸小石塔あり
是を猪股山平六墓といふ、其故を云ふ人

天正七年、徳川家康の城を築き、家康の謀を謀議あり
此時より毛利家に結ぶ信直、以男三、其後、城を豊後同古、
猪股山平六橋あり、其より直家、関を築き、城に入り、猪股山内、
して味方と、近付城に入り、平六の約束し、事
顯る、平六を捕り、追ひ、城を堅固に守り、其とき、
此平六の墓あり、古く、平六有る、依り、後世、混り、小の字
を付し、あり、平六の後、直家、不仕、其後、其墓あり、成へり

首塚

小山村有、又長門塚あり、何の故と、其の故を云ふ人

中将塚

吉尾村小石塔あり、何の故と、其の故を云ふ人

塚

今尾村の呼坂と云ふ所、足利直義、辛川市場あり、合戦あり
時、戦死の人を葬りし

宇野則武墓

花尻村に在り、則武清盛の悪行、其より、京師を去り、爰
に來り、住む、石清水と稱し、八幡宮を勧請せしむ、云同
村八幡宮社記に、久々、たゞ、尾上村之内、車山城、宇野
常刀、則瀧と云、山城、甲山、道の、彦、其より、当社を勧請せしむ
花尻村祠官、花井求馬、出あり

塚七十一

二母谷 一山茶 二野々口 仙母山氏名山 在八尾上 二十六

西幸川 五幸川市場 十四松尾 七穴窪 二磯ヶ部 二池谷

二横尾 何の故といふは代々

大覺上人墓

幸川市場村に有る 元禄年中の上道郡因山寺より引

移りしと云ふ所 臨終のとき 此所に命を絶す

吉備津彦命の陵

一ノ宮村有木谷南の山頂あり 陵山といふ

虫明市内墓 同左近の墓

西幸川村にあり 當村城主より守墓の家不従いし 天

正九年八月廿二日 見島郡八濱村全残の浮田を命とす 所

に父子共お死す 一統戦後死骸を此處に安葬す 葬り

いと云 此処を市内山といふ 委々 一城跡の部不記を合

とす

石原新太郎墓

虎舎村城跡に在り 此城を守る者多し 孝行長船越中守より

秀家への代不政道のみ不付く 此處を名山とす 出府一妹

緝の石原新太郎并橘崎左京進を留守居し 此處に天正

十五年 一十月十六日 石原古く越中守の家を管應のたの虎舎城

小松姓を越中守の嫡子紀伊より石原と常に不命なり 此

處に外に虎舎城より 越中守の源氏を圍基を并つを

越中より物し居るを榎野狭間が新吉命を誘ひて
て越中より眉間を捕り殺し源五命を初め座中殆く所
を新吉命の子新吉命二人を殺し源五命を切敷を新吉命の
妻越中守長刀を持て座敷に出越中より死をんいさめを
きんと睨み送りたり頭を前後に打撃するもくは
果し入り榎野より石原父子共石原榎野火を無く自
害より新吉命の兄石原伝言也榎野座敷を以て
ゆいゆい即時小自害をいふるを越中や有事は以て
近き山に榎野を引りぬ紀伊守や否や家来一族
一騎にけり馳向ふ榎野を六甲の鎧を獲る事いふあり
傷る程時を榎野座敷を以て石原の榎野城は榎野有程時

未だ今三納谷村に有 榎野榎野の如く石原の振返中一
族の敵あれり石原の墓を築へきのありん定る石原一家
自害の者共を一所小埋りぬの事いふと後新太郎の墓と
いひしものり

宇森多塚

白石村に在り和氣館ありて宇森多塚と名を呼ぶ
今も此塚廢りて打ちて在所の民を去るは此の後人
是をたす也

赤坂郡

丹生民部墓

吉田村宮林乃中なる塔二ツ所津高郡庶漱村の佛堂
按多に山内村蓮光寺民部建立之寺あり一は其れ
此の墓なり一はのふし一ツを定て民部あり墓ふ
らんの民部を浮田直家不従い一はらふとて一は初ま
松田の幕下あり

遠藤河内

回修理亮

回内藏助

西中村の南小右三人の墓あり松即本誨檀の木あり

河内を津高郡戸倉の地と後には津高郡の字に
賜りて字を多河内と稱すといへり

湯原石山セイヤ之助墓

惣分村の東に在り当村の城主湯原藤内と云者才之
りり若き時小治政武者修行し名譽多き者
し一氏甲氏譜に傳ふ

石塔

多呷村の月宮地に有り
甲氏の説小那須と市宗言と墓と小傳中古城記西
江系村小菅城と那須と市宗高讚岐國矢野の浦と
平家と全戦の時小那須の的矢射る恩賞小江系乃庄と

傳ふ此塔を開基し其子孫代々爰に居住すといへり
續武家盛衰記も那須と市宗の的を射る恩賞小傳
中國繪巻と伝ふりたり此二記を以て考ふと市
の子孫當所へ来り住むに依りて先祖と市宗の墓を建
てこれと傳ふものゝ市宗の子孫代々市宗のりりたれと
後乃と市宗の墓の未審傳前傳中とある小傳小那須の子
孫と

首塚

由津里村にあり里民これと首塚といふと云ふ
尾子晴久傳前と切丸といふ 七月上旬當所
此塚より浦上宗景の首花房と云ふ當村と町前田村の

境がまき、池の邊まで我い花房大に勝利を以て尼子勢
と池上大物退還し首級多討り我軍中討り死
人を一町前埋し、此の時宗景が花房に感状有り、今亦
神田村乃民家小所花を

大貳塚

中物家村に在何人とも我を以て又勅使帰るといふ
七重石塔

馬房村に在言一丈くく此の古へ五分有天平年中
お建りきり、理塚のく、委しく、古路、神水記きり

早咲仙代墓

園匝村一の谷とよふ所在り、當村城主早咲藤内子之

當村落城の時此一谷に隱居し居り、成部を以て大川
向美作、飯岳村と引退し、同村、甲民川端へ洗滌不
出居り、若き時根城田より落し、名姓を以て向り、一谷に
隱居し居り、告げきり、故に又きて向り、一谷に、
折管仙代と、め毛種を、あき、并、當を、以、居り、
来り、く、五、殘、討、捕、り、中、に、其、後、以、や、少、仙、代、の、死、體、を
埋め、予、少、名、を、築、き、り、中、に、一、谷、に、いつ、の、比、に、當、村、の
民、其、瘡、疾、乃、時、に、以、善、齋、り、け、り、を、中、に、分、り、し、
瘡、を、治、し、給、り、ん、其、中、に、禮、不、殘、り、せ、り、と、い、ひ、下、に、立
形、を、れ、い、立、と、り、り、不、病、後、を、り、能、重、舟、飯、岳、村、乃、其、舟、に
立、形、し、て、り、り、不、病、後、を、り、當、時、に、當、村、中、の、民、中、に、傳、へ、り、

福... 又近來甲氏... 祠を建てる... 多し... 又近來甲氏... 祠を建てる...

... 和氣清磨... 松木村... 塚... 延暦十六年二月二十一日... 其性大剛忠烈... 小川... 澤原村... 足利將軍...

般梨郡

和氣清磨卿墓

松木村在字も尺斗の五輪之所... 塚とも云布姓... 延暦十六年二月二十一日... 其性大剛忠烈... 小川...

小川所墓

澤原村小川山自性院境内... 足利將軍慈照院義政公の法基... 法名妙善

院常徳院義尚公の母堂哀松右少弁政光の女京都
小川の伊前不任多小依小川伊前と稱す小川伊前を
一条をり小川の少路今小川殿下也不延徳を江州
曲甲より義尚公葬し又曰二子不美政公葬し又
政公の養子義村の世あり二子不阿し義村没後
義沖よりつりし留子の惣家不哀松家今日世にも早世
たりし哀松の家とせふありにまじりては不美を
葬ん

慈照院義政公墓

按小留子不依ふもつりしもの
伊前谷自性院於上谷あり

松田左近将監元成墓

大村出雲墓

弥上村の内山の池也伊前所あり
文明十六年松田元成浦上を吉井川の東天王原を戦し
松田お負て金川引取んとて浦上惣家不追され
引返り戦れとも伊前流子数ヶ所負れを碧梨浦上村の
山の池と云ふ事自殺し失り松田家於大村出雲
者尼子家信あり今日ゆふ元成の自害をつんては
く眼切く死あり元成の子元勝此由をゆふ而爰不来りて
死骸を葬り一寺法此而の建り立雲山大乗寺と云大村
をも元成の墓の側小葬り大乗寺寛文中廢り元成
の墓と出雲の墓今小山の池に残り

松田將監妻子墓 石塔十三

可志上村の内西の方小阿久委くハ不知之

宇森多土依墓

田原上村の内古寺ハ有法名道益慶長十七年二月十五日

ハ石塔ハ有日蓮宗時正山妙應寺

宇森多土佐守石塔ハ高九尺横二尺四寸の石塔依伯寺山

村本久寺ハ阿久富

塚十四 一喜谷 二田原下 一可志上 三浦上 一矢田部

五字巻 一出生

石塔

石蓮寺村ハ在リ此寺ハ古ハ言言宗平満山石蓮寺ハハ

寺者此寺臨ハ古石十三重の石塔長三間一尺五寸其臺座

九輪其今ハ在キ經塚あり

浦上遠江守宗景内室之墓

當郡田原村川端土手の上在リ下ハ松の木阿久

天神山落城の時ヤハ一人首人トあり當村ハハ

甚ク餓ハ及ハリ其ハ或在家ハ行き食物を乞ハル家主ハ

ハハ進マレ物あく折管麦粉阿久りれハ其ハ進ム餓

餓ハたえハ収ラズヤ大口ハ喰ハレハ忽チ咽ハテ死

リハ咳入リ終ハ命ナリ臨マレハハハハハハハハハハ

内家あり其ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

此の事何れも出づる所の御事なり 和泉村
所領の秋山久之布物持事

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including names like 天朝山宗御親王 and 朝正親王）

和氣郡

安達修理助墓

伊部村小有同村たの山の城主なりといふ

浦上村宗墓

木谷村小有 享禄四年六月甲辰松原天王寺におおき村宗

討死せし死骸を永傳木谷村へ葬り村宗法名を桃岳祐林と

云嫡子よひ命政宗 後掃部助 二男よひ命宗宗 後遠江守 宗後

兄弟不和の成り

明石宗綱墓 并屋敷地の跡に有人物の形不悉

佛村小有少郡曾根村の地主明石大和守宗行の伯父

藤原末光墓

大股村に有る里民の説に流落の公家と云

日笠弾正墓

日笠下村に有る浦上宗景の老長

延原八郎左衛門墓

矢田村に有る宗景の家長

首塚

伊那村醫王山の麓に有る旧村茶磨岩の城戦の時不戦死の者を埋めし首塚と云

塚

麻字那村に有る塚の上小石碑有る新田庄麻字那村と云る疑りくハ古への村境の石表と云るあり

倉光三郎兼光塚

藤野村安養寺前小寶成と云日蓮宗の寺あり爰小塚

あり其上に三十番神堂を建つ里民の語り 倉光の

墓と云按さるに漁平盛衰記に三十三付前小和字の海が

東に最野と云古き浄堂小居る兼康と云るや

倉光及妹尾ハ今も福近の徳に打具し多りれども世の

急より所も合致せん事難し兼康忠進る所の松を

見迫又親しき者せよと云けしと倉光を何れとも

伊食とも同意せしと云けしと倉光を何れとも

少埋松に計略へとも爰に留る兼康をさし一頁と云

事と云草壁と云所小駝付し傳を方へして親き者

甲斐人相寄て夜討せんとし立ちたる舎光争々角々知へきを
今やくと待たぬ夜半斗小兼康を十余騎の勢あり藤野に
押寄る舎光三郎を夜討すて丁持歸ふなりと云く君光爰に
討せしれん定て此処に葬る墓ありへき平家物語より舎光
を殺すに三石宿あり何きう是ありと云く

耳塚

龍ヶ鼻村の大川邊あり天神山落城乃時築し也今
塚も形もあ

墓

山内田村より明暦年中山谷と云所より武士一人腹切
合夫が今中河を腹切谷と云所人を埋め墓と云

児の塚

倉吉村 童山小石塔有何の塚と云事成を
千人墓

墓

田舎村より有塚の元と云古への墓と云石塔

首塚

金谷村より有古へ戦死の者の首を埋め

墓

大内村高堂寺より廢寺の跡に石塔有廢滅し
かき甲斐民を討つ氏將軍の墓と云樹を

石川主殿墓

石川左近墓

兄弟と云

野吉村の内下馬と云所より有坐場而二間亦三間中絶土少小
高き所之毎歳當村安養寺に七月十日より盆中回向
あり何人か云ふ事と不詳尤日新下原村の民家小石川に
墓の跡を記したる書を所載其年号其外探
せしむるに足らん故に爰に不記

万五郎墓

閑谷新田村の内田に中有寛文に比伊那村の万五郎と
云しその當郡孫中村へ馬を志す行々後中村へ博奕を
持て行くと云れる所を是れ北村宗伊人へ云けり

わきの者とも万五郎を馬を縛り付て棄てり其取万
五郎繩を解き主成切殺しと仰ると亭主の孫
而も行し亭主目覚められたるに万五郎は逃去け
ると跡より大勢追然と依り當村の某やいふもの方まで
逃去りし其時追手は去り去り是れ万五郎を
へ左あきおのり焼おのり云あり其是非万
五郎を牛にりれ此所あり切殺しあり生死骸を押し
下し極をより一松を今も万五郎松と云侍る也

石塔

三石村日光山光勝寺の境内あり此所より城主
の墓と云何人ともありと云る考ふに伊東、浦上りの

一族ありん

飽浦三郎左衛門尉孝徳墓

加久井島不在り此孝徳ハ太平記小年一飽浦三郎吉妻つ曾
孫之享徳三幸山名宗全父子と赤松彦五郎則尚少争
戦之時孝徳も彦五郎則尚少日比り困深かりこれ播磨
へ行き一味きりに則尚戦負て夫も孝徳伴ひて本領
児島へ退き飽浦の城小籠りて宗全猛勢を以て
責りて赤松方力に城を落ち則尚ハ船に乗言誓後
王彼必死仕ふ由孝徳も加久井島より行く自殺し
り事々康正元年五月十二日と委しき江源家譜
より

古墳

古藤野村あり墓面小傍中辛川城主大森新四郎と稱
付り

明石掃部墓

小坂屋村に有日村小掃部の宅地臨有掃部大坂とのりれ
行衛志まきしりへもけふあれをゆるりて山崎所不
来り住み身をおく一爰少死りや

野尻藤兵衛墓

蕃山村正樂寺に有古太山と云而之態浮る今の実父之
藤兵衛若年の比加藤左衛門助小佐中夜山崎甲斐守に
仕えり百五拾石を賜り又賜り山口修理小佐り

修理死去後仕を辞し浪人なりし時原陣より別荘舎
内猪討死し跡行後の内猪が濁溜の手へ入居居城の御
早し土井少左り乞り候砲丸の腹を打怒り右の股中り
歩行不叶由陣後と傳の子次郎知少より熊澤春三郎の
了り母方の叔父へ養子と成寛永十一年本藩小幡と成仕え正後孫
仕し業を藤樹と生れ少更し正保二年再び本藩小幡と
より藤兵衛も岡山へ来り居任より延宝八年若山と病死
行年九十一歳少村を熊澤の采地ありしゆふ愛と葬る
也云

古墳

三石村吉言宗日光山光の寺の境内に古き石塔あり寺僧の

説ふ此所の塔は石塔也云何人と云ふ成志は若浦上
家の墓と云ふ三石城と浦上代々居城と云ふ後の人は
考と待

木村三郎兵衛墓

伊勢村あり木村長門守の弟也云天神山前城以後少村は
隠居し病死しり少子孫藩臣とありて醫者とありし
より代々と種々今木村道意と云

浦上よ次郎墓

信陽記に云ふ

川中村の内村赤木在り命一少相と云浦上遠江守宗景
の嫡男元龜の比浦上守春多不和ありし一子つ和
平あり天正の初少命を直家乃解とて親と云ふ

岳山城は直家稱し後賢と云ふ岳山へ招き振舞の折
かり毒を予へ歸し途程中病つき天神山田城に後
早く死去といひ傳ふ事未実不考と弁せしむ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

古墳 邑久郡

古墳

福岡村妙真寺小右里民赤松氏族の墓と云
按きもに宇森多真家の^{直家の父}福呂村阿弥善定の家小卒
則富村小葬る露月光珠と法号を以不疑りいハ六の
真家の墓なりい外不可乙也
宇森多墓

大ヶ嶋村大雄山大賀急寺小右里村砥石の城主宇森多
能家^{真家の父}の墓之能家老後入道一と常孫と改む
天文三年六月晦日小右里村豊後守俄小砥石城を襲ふ折
城中で物中上ノ不意の事ありと忽城を棄ちて奴常孫ハ

老病犯れ歩行も叶わぬをん方なく自殺す其家
愚かの上に臆病あり是を防ぐも城と遊むる兵
家、嫡子八郎 直家の幼名の當手日歳を乳母抱て漸に
出く福忌小首なりぬ継家常孫の死骸を城の傍に
大鹿を山越山小袖をける

宇森多明歌墓

邑久竹村の古墓宇小松寺中阿
按さるに当村江岸寺の城主宇森多五郎を其墓に
歌を法名ありて文昭此の人を西大寺寺中因満院所
翁不け五郎を傳つるの宗近状今もあき

古墳

同村より一本松と云又いつきともは何の故やいふや哉
と云ふ小き塚也

宇森多宗因墓

濱村より當村の城まへ

石塔 五輪

長沼村より田原藤太秀郷の墓と云未詳
甲民の詔小田原藤太秀郷に兵糧多あり百足を射殺
す恩賞小當所を賜りし所新田三所を墾とせしに
て民に徳をたしむる後世逆修小香々の墓を建て

後藤筑後守墓

西原村に有る何人かあり詳し
馬場左近墓

鹿忍村より

石原但馬守道高墓 康正元年 寺傳の後に應永十
年二月廿七日云

石原八郎墓 康正二年 寺の後に
元亨とあり

石原修理高伊俊墓 永正七年

此外石原一族十三人の古墳あり 五輪云

牛窓村本蓮寺境内に在る石原少所の飯主なり云云

寺邊寺過る帳わたのよりあり 爰に記す

妙道号儀 但馬守
按云史康正元年八月廿七日

正祐号儀 但馬守
史康正二年四月廿七日

淨瑠璃号儀

妙實号儀

俗学号儀

法運号儀

隆存号儀

秀祐号儀

増純号儀

妙利号儀

俗徑号儀

貞徳号儀 但馬守
父

信切号儀 石原守
海子

右石原一統の法靈

石原八郎位牌

名日康正元年四月廿日

馬塚

福里村の桂山の麓に在

盛衰記に昔備前の國小瀬佐介といひたゞ兵の要者

これを西戎を逐うとし、為る官軍を招き入るをうらむに

官軍を招ふのうらむに佐介を馬本のうらむに先陣を

進んて海上を渡る福あり賊徒を責随へて又馬本の

ちうら海の面を歩まると本を御うらむに備前の内海を

油鹿と云魚の言を語られしとれれりふりしと云ふ

佐介を陸地におきて後不語死るるを而も堂を建てて孝

養しけり馬塚と云今に在

按するに見島郡宮の浦におま塚と云あり又古事と

馬塚とも云佐介の海を争うに御宮の宮の浦に

あり馬を埋めりやありし又本郡服部村にお山城と

いふ古城山在天佐介の居りし城と里民のいひ傳ふす

れを馬も福甲にお埋めりや皆考へし又馬塚の宮の

浦と云し福甲のを天佐介の墓と云あり塚とも

ありし此説可なり

古塚 乙子村

當村の城山の北表にお古き墓あり其墓唐より日守所より云傳

事ありれど誰の墓なるか未嘗今按に太平記建武三年
五月の和田備後守範家播州河津院の宿舎に討死せし
時葬禮小坂河津に遺骨を故郷に送る所ありし事
是久那和田に納葬し是時和田の南ありて是より
遠うぬ所ありし此山の北表に葬墓を立つなり一近
小建武の此の古墓との残る五輪を以て形同歎
まゝ範家の墓なりき下さるの武士の墓と見えん
小笠原兵部少輔墓

土佐塚

庶忍村大船山宝光寺境内に文龜年中播州の人
當寺に寺領百石持石家附き寺記ありし事
小松と栢との大木生茂り仍此所を土佐村と云

明石掃部墓

虫の村

伊木家の采地虫の村なり今この家の家は森氏の宅地
内あり掃部大坂落城後而く流浪し時去りて此所を
當るへ向ふ此虫の村に居住し終る今も當村の
属邑勢之村の民間の子孫あり又伊木家の姓の子孫
孫の氏を改めて横山氏とす

按に多に和氣郡小坂屋村に掃部墓ありし事
ナリとの事あり

報恩大師墓

子子村弘法寺境内に有

永倉出峯と云ふやまに在り又四十九歳 石碑もなきたゞ石を積み
て塚とす 報恩大師の墓や古より甲民寺僧共語りし

釋報恩の當志津言教芳契村の人と延暦十甲年大和
子島寺より寂きり能くは當山に墓所を考ふるに當村
千手山天平勝宝三年報恩志の寺を再造し當山
四十八ヶ寺の數を加へし故に古を報恩山真法寺といふ

延暦十甲年火災に後弘法大師この旧跡をめぐり又新小
寺院を建てるに云々をわたり千手山弘法寺と改しなり 報恩再興あり
因り當山にも逆修の墓を設けしあり

きみり塚 日村

弘法寺境内天狗谷と云ふ所に在り何の故やいふ事なきん

堂の後の谷を天狗谷と云ふ谷下は大池のやうに小中を有
長サ卅百餘高サ四丈一丈の塚有これなきに塚と云

五輪

同寺仁王門の前小一本の大杉有其下に五輪の石塔有り報
恩大師の弟子より出づるの住僧の墓のより寺僧の從あり
古き五輪ありしものなきに後其墓のありあり

上道郡

帝子墓

湯迫村浄土寺の境内に有る浄土と云何かと云王統志に
 此墓何の人の墓と云とを詳古墓の方料を定られ事
 日本記の記へるに上臣の墓の方料を此墓にせられと
 まさうたむ移され上臣の墓多へ此上臣といふは後乃
 公といふは入乎此に史補任等考ふに此玉
 小墓有へき公に多くありて中々古備大古の塚に付中
 有和氣清丸のハ般利有有屋余と云儀秋篠安仁
 仁弘仁十二年此玉の任を薨すふ公按ふ玉のちなり
 必此玉の玉府不有りて薨するなりへ湯迫村に此墓に

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

有而今小府市場村に隣りて中府に於て葬りたる
明徳二年三月に秋篠安仁公を葬りて築ける墓ありきや
首塚

中島村に有る永祿九年三村家親と赤松直家合戦の時
戦死のよき首を埋むといふ又當村に所傳の時首を埋む云

中山備中守女墓

藤井村に有る石塔有る

宇野多直家墓

補傳陽記に曰直家母の墓寺山村に在り
主所藪の内ありと云々

寺山村に石塔有るといふ按て寺にありて直家の墓

岡山平福院へ葬りて堂を建木像を安置しと云々

これに直家の墓ありと云々たゞ之定て宇野多直家曰始り

墓 墓なりと甲民中阿やまて直家の墓といふ云々

金岡塚

西大寺村に在る塚の上石塔有巨勢金吾の塚なり此に

當ふ所ありといふなり何の書もなしなり不詳あれ共

甲民の説といふ金吾塚と爰に記す

岡崎常盛墓

中野村に有

宗心墓

中野村に有る畠山氏の末孫の云々小時代不知

平井助進母墓

平井村妙廣寺境内に有る平井助進の松平家の麾下にて當

村の城

潮見塚

中野村に有る此塚何と云ふ代々此塚に海潮の干満を伺ふ云々

大覚上人墓

園山寺の法華宗大光院に有る前津高郡辛川市場村に有る此塚何と云ふ代々此塚に逆修の墓と云ふ

源為朝墓

中尾村の内畠の中有る甲民為朝の墓と云ふ何と云ふ代々此塚に未詳

墓

百枝月村甲民の説小苑山院の陵と云ふ古くはたつた所此墓の在所を王子ヶ鼻と云ふ是れ古くは昔皇子の此國へ流され玉ひく古のふも此塚に云ひて此塚と云ふ又徑塚と云ふ未詳

塚五十五

- 三 中川 五海面 四南方 五北方 五菊山 五観音寺
- 七 笹岳 二草ヶ部 十四草ヶ部 十四沖益 一杉原
- 一 竹魚 一吉田 一内ヶ原

何の故と云ふ代々此塚

首塚

玉峯院に在る是れ妙禪寺合戦の時三村方の兵士の首塚

多うそ討死あり其骸を穴をりし一而小押をて塚を築し其後二首塚といひ習をり今を塚とす一由寺門内小松の大木有塚の有り処と云

五輪

菊田村に有毘沙門云傳ふ

宇森多直家母之墓

直家の母真家の妻之真家邑久郡福岡村の阿部善定の許より久々居候に付善定より使の女を真家小めあてきて三子をせむ直家忠家春家これに母死したる時葦井川の西新町の南一町をり隔りたるや小葬りし墓有之直家記ふくく

中江太右衛門宜伯墓

平井山に有

藤樹先生の子之藩中より来りて寛文四年十一月十二日卒を享年二十三平井山に葬る墓の銘何れ爰に記岡山に未の時九歳之む多幼少ある故加世八兵衛中川権太夫附末に花圃に位一月俸を賜る後稲二百石を賜る

中江宜伯子墓銘

中江子少名虎字太右衛門諱宜伯江州高島郡

小川人考與右衛門諱惟命始仕于西豫早有解

印之懐辞官帰郷高尚其志專以講学論道為事

其教崇徳義勵節行儘有游其門者学徒或称藤

樹先生嘗娶高橋氏以寛永壬午十一月廿三日

寔生子於小川子幼有知資稟溫厚舉止閑清不好
庸兒之嬉戲頗有成人之風標鬚亂風孤累遭凶
事祖母恭愷及長劇好道學敦尚行實讀史講經日
乾夕惕孳、無倦深以纂前緒成考功為志其朴實
寡嘿愿慤謙抑自有以過人者庚寅之歲筮仕于
備陽二弟仲掄季孝並皆成官資教悃到友干尤篤
子平居危坐終日無怠惰偃側之容接人持已動以
法度屢有餘行則馳馬試劍講肄軍禮可謂能游於
藝矣寬文四年甲辰五月十二日以疾卒于家享年
二十有三未娶無嗣嗚呼痛哉早夭即世胡不幸之
至遂於岡城東南平井山之麓學士僚友會哭相

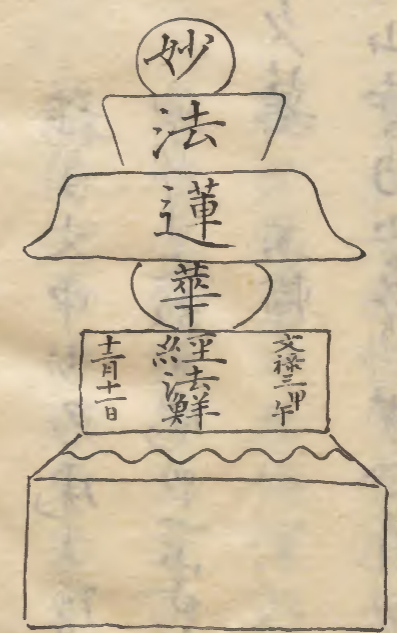
吊參酌表儀以礼治葬因巧其狀乃擬其槩刻碣表
墓且系以銘銘曰惜哉若人弱冠英特志學奮然忘
寢與食續緒懋功共為子職盡規存心強有臣力會
文思思講武翼翼色溫柔刺行敏言默天奚嗇年無
成其德平井之丘遺此幽刺

梅下文中少名虎と何れ太右衛門の幼名を虎と介と
いひし故に虎の一字を書きあはし

宇野多墓 五輪

堤の山寺内少右衛門世にこれの中納言塚とよむ謬あり
宇野多は宇野家の室より秀家の子母ありし秀家卿
秀家の中納言あり故に中納言の母と云ふ以後世母の字

略したる由依謬多々なるへし当寺の過云帳に浮留氏
 沙希法名法鮮大姉文禄三年甲午十二月十一日あり



此秀家卿の母は邑之郡の産を高直侍中より不縁の者
 秀家卿の代より大方庵といひし伊東家の妻なり中山
 侍中の娘なり此法鮮の妻なり秀家卿の安貞母
 ナル依り大方庵と崇めしなり

榊原香庵老墓

門田村格岸寺後ろ台崇すかす山の山より豊島石の
 石塔あり今を磨滅して文字もなき石燈あり二基
 あり一も墓よりあり一も石柵も倒れ草なり

香庵老を榊原式部左衛門康政の孫より同遠江守康勝の子

幼名を平十郎といひし元和元年五月廿七日之康勝を

平十郎以時幼少ゆへ大須賀出羽守康政の子忠治と名

子し榊原の家を継ぎし中後平十郎を承継して正徳

初年出されし二三年の禰を継ぎし中平なりおもしろ

永十三年世をのれ入道して言神山よりありし正保

此墓を榊原式部左衛門康政の子忠治と名
 香庵老の墓にありしと云ふ

元年 烈公より 公儀へ侍候し侍りし侍前へ近き侍りし合
 カ米五百俵よりせられ赤坂郡牟佐村小住左所より寛文
 二年七月廿九日牟佐より遠方より吾山より移居候へりし中仰
 せられ早速吾山より来りし伊庭主膳より跡所を以て信州公の
 と系らるる侍りに候き侍りし同七年五月廿三日病死侍りし法名を
 覺林院隆玉堂一瓊大居士と云位牌の養林寺に養林寺は福照院
 廢し建立し父
 康政の進福のため康政の
 法名養林院を寺号とせり安曇氏香庵の子八の助より侍前より侍られ
 同年秋江戸へ召られ侍候侍りし吾山より伊庭勝也と云勝也の子也
 虎の助勝乗と云市家式了大補政倫早世子ありし虎の助を
 養々家を継いでむを柳原式了大補政邦と云烈公の伊母系は柳原
 康勝の子 唐勝の孫に依り侍りし侍前へ引り侍りし遠江寺康勝の嫡子

児嶋

冷泉宮頼仁親王墓

木見村小住後鳥羽院の皇子也古へ廟堂有りに今古
 石塔の殘りし中而を各宮侍靈廟と云兼久より乱
 後鳥羽院隱岐より遷幸侍りし宮より國よりありしれ
 玉の頼仁親王の此處より遷され侍りし玉の宝治元年丁未
 四月十二日号流院宛りて薨りしを以て此處より葬りし隱徳
 光院と云侍りし五流り侍記あり侍りし

東鑑曰兼久三年七月廿五日丁未冷泉宮遷于
 備前國豊岡庄児嶋依り木太郎信実法師受武
 州命令子息等奉守護之云云阿波宰相中将信

成右大弁光俊朝長等赴配所云云

櫻井宮覺仁法親王墓

林村権現の社地池中の島に在後多羽院乃白皇子より
三井の圓滿院の座を慈光の山の檢校より兼久の乱を
さげし此而よりありまふ知長三年癸亥三月廿八日尊徳院
より薨しその境に小葬る 此墓を世俗
櫻井墓と云

石塔

林村藪中小河り後多羽院隱岐より崩御より河を已
後仁治元年二月廿日後多羽院の淨石塔佛廟堂一切
八經院を建てる追善供養ありと云

古墳墓七ツ

呼松村の沖小玉島といふ櫻井親王配流の地のより云
傳ふ侍女の墳墓七ツ有る廣江村醫王寺此寺僧の説
あり

戸川幽林墓

宇藤木村常山の麓に有幽林と戸川肥後守と常山の
城といふ碑石小

南無妙法蓮華經昉授居士

墓守あり幽林に位牌をも而持を備中戸川家が今も毎
歳米を賜ふ近末位牌安重を修理を中戸川
家より白銀を賜ふ

宇佐多基家墓

大崎村の河小碑有八濱の境あり
河本も吾衛墓

同前少基家の持八濱合戦討死河本對馬の子
源重市八濱くち打死と士帳あり此吾衛所と同一の河
中々熊山の城まゝ

能勢修理墓

塩生村に有此所をうたうま嶮と云当村布衣城まゝ法石

妻三といふ

東江左衛墓

東田井地村に有三重の一族と云上小市の松と今も阿

四宮隱岐守墓

利生村刑部赤山の頂にあり此山向此の論山あり当村に
城まゝ

木食上人墓

大畠村の巖に碑の銘有甲民これと木食上人の墓と云
岩窟に居候して常小就の雌雄ありと云ふ仍く此所を
勢羽山といひ又勢羽又自鼻と云

尼の塚 馬塚といふ

官浦村に有馬塚の方をみる所の天佐介の内海と云を誤
らきりや阿りて其前馬塚とて今も阿り中盛衰記に
あれと思ふ山あり馬塚を福里村の天塚と云ふ

佐々木墓

波知村に有五輪の墓一版下小家の墓と云五輪
教多あり不詳

飯尾彦右衛門常春墓 万室全去墨跡飯尾彦右衛門常春
身對居全考すあり

木目村の陣中あり平小松有古傳を云く人

水澤和泉守墓

木見村より尚村の城主と上月紀前隆徳の幕下と云

経塚

藤戸天城の間あり経塚あり山あり民間の伝承木盛綱

浦の男と殺し其教養の爲なり経塚と云へゆし今小

平の石塔あり

積塔

廣江村瑠璃山醫王寺の記小当り後多羽院皇子櫻井親王
等寺の地之親王当り不詳後多羽院追福のため寺のま
あり山小塔を建て積塔院と云今の岩瀧山是なりと云

墓三ヶ所

山村の内小有里民の説小田村將軍の鬼神退治あり鬼の

墓と云傳ふ

木食上人の考

文徳天皇齊衡元年六月甲寅朔乙巳備前國貢一伊

蒲塞断穀不食有勅安置神泉苑男女雲會觀者架肩

市里為之空数日之間遍於天下呼為聖人各私願

伊蒲塞仍有許謬婦人之類莫不眩惑卒咽得月餘日

或曰伊蒲塞夜人定後以水飯送數升米天曉如廁府
人窺之米薰如積由是声價亦時減折兒婦人猶謂之
米薰聖人

按此山以此伊蒲塞京師又當其地神り木食上人と
木食上人の山に於て石塔を建てる事あり

北斗星墓



言此山古へも北斗の列次を配て山の内七ヶ所を墓を築き
北斗七星を祀りし事あり内廉貞武曲との二の墓は今も存す
余のちり不陵遅しと云路ありかすと松林寺の縁起に有

此山北斗星の墓ありと云ふ事あり
此山北斗星の墓ありと云ふ事あり

